



# 目次

■ 総合防災マップの使い方	1	■ 地震について	15
■ 避難情報伝達の流れ	3	■ 地震時の行動	16
■ 避難所一覧	4	■ 地震時の日頃の備え	18
■ 避難行動判定フロー	5	■ 地震時のトイレ	19
■ 避難の4つの方法	6	■ 火災対策	20
■ 情報収集方法	7	■ 地震ハザードマップ	
■ マイ・タイムライン	10	■ 揺れやすさマップ	21
■ 要配慮者への支援	11	■ 建物被害危険度マップ	23
■ 避難所生活について	12	■ 洪水ハザードマップ	
■ 風水害時の避難の心得	13	■ 洪水浸水想定区域図とは	25
■ 風水害の知識	14	■ 索引図	26
		■ 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)	27
		■ 浸水継続時間	35
		■ 早期立退き避難区域	37
		■ 非常持出品・備蓄品	裏表紙

## 総合防災マップの使い方

風水害・地震から素早く安全な場所に避難し、被害を最小限に抑えるため、避難所や避難時の心得、災害の備えなどを、日頃から家族や地域の皆さんと話し合い、確認しておきましょう。また、家族や地域独自の情報なども追加しておきましょう。



### 手順01 自宅の危険度を確認しましょう。

地図上で自分の家の位置を確認し、自宅とその周辺が浸水した場合の浸水の深さや継続時間・家屋倒壊などについての情報や、揺れやすさマップをあらかじめ確認しておきましょう。

揺れやすさマップ P21~22  
建物被害危険度マップ P23~24  
想定最大規模 P27~34  
浸水継続時間 P35~36  
早期立退き避難区域 P37~38

### 手順02 避難所を確認しましょう。

自分の家の最寄の避難所を探し洪水時・地震時に避難できる避難所かを確認しましょう。確認した避難所を表紙の防災メモに書き込んでおきましょう。

災害の状況によっては、予定の避難所まで行けないこともあるため、避難先は町が開設する避難所だけでなく、日頃から安全な場所にある親戚・知人宅に避難することなども考えましょう。

避難所一覧 P4  
防災メモ 表紙

### 手順03 避難する道順について確認しましょう。

家族で話し合ったり、実際に歩いて避難経路を確認しハザードマップに書き込んでおきましょう。

浸水が深い場所を避け、建物被害危険度が低い避難経路を設定する。

### 手順04 実際に避難経路を歩いてみましょう。

設定した避難経路を実際に歩き、危険な場所などがあれば経路を見直しましょう。



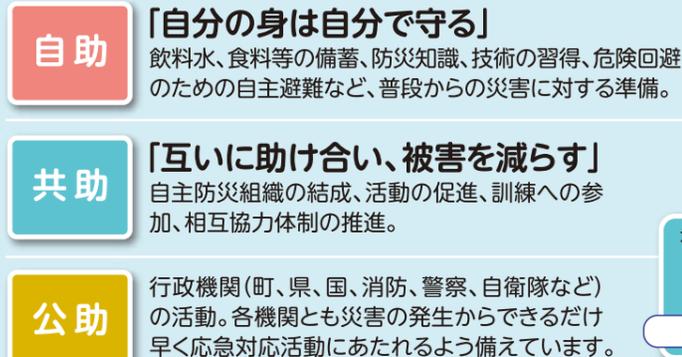
### 手順05 災害情報面で日頃から災害に備えましょう。

- 自助・共助・公助
- 避難行動
- 情報収集方法
- 風水害の知識
- 地震の知識
- 火災の知識
- 非常持出品・備蓄品 etc.

Check!  
P2~3、5~20、  
P25、裏表紙

## 自助・共助・公助とは

災害に対する予防・応急対応、復旧・復興には、住民の皆様と行政機関等がそれぞれ役割を果たし、協力・連携して対策に当たることが大切です。特に被害を最小限に抑えるためには「自助・共助・公助」の効果的な組み合わせが重要です。



## 自主防災組織の協力

特に大地震のような大規模な災害時は、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、消防や警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。  
あなたとあなたの町を守るために自主防災活動へ積極的に参加し、「**災害に強いまち川西町**」を作りあげましょう。

**自主防災組織とは**  
地域住民が連携し自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。

### 平常時の活動

- 1 防災知識の普及啓発
- 2 防災訓練や地域の防災安全点検の実施
- 3 防災資機材の備蓄

### 災害時の活動

- 1 地域住民への避難の呼びかけ・誘導
- 2 負傷者の救出・救護
- 3 初期消火活動
- 4 避難所の運営

